



国際交流の特色

東西大学校は、1970年に設立された東西学院を前身としている。現在の名称である東西大学校となったのは1996年3月である。東西大学校は、日本の立命館大学及び中国の広東外語外貿大学との間で、日中韓政府公認のもと、学生が互いのキャンパスを行き来しながら共に学ぶ「キャンパスアジアプログラム」を実施するなど、国際交流に関して非常に積極的な大学である。



教員からの声

2016年に、東西大学校と香川大学の間で、国際学術交流協定が締結されました。釜山の東西大学校で開かれた協定調印式では、東西大学校の学長より、東西大学校では、日韓中の各国について深い理解を持ち、アジア問題のプロフェッショナルとなる学生を育成しようと、日本の立命館大学及び中国の広東外語外貿大学との間で、日中韓政府公認のもと、学生が互いのキャンパスを行き来しながら共に学ぶ「キャンパスアジアプログラム」を実施していることなどをご案内いただきました。国際交流に関して非常に先進的な取り組みを行っている大学と感じました。また、学長をはじめ、日本に留学経験をもつ先生方も多くいらして、日本との交流にも積極的であると感じました。

翌2017年度には、2017年6月23日から3泊4日の日程で、東西大学校の辛副教授が本学経済学部を訪問されました。訪問の目的は大学間（本学は経済学部を中心に）のグローバル教育プログラム作りです。

まだ、東西大学校に留学に行った香川大学学生、香川大学に留学に来た東西大学校の学生はいませんが、今後、学生交流、教育・研究交流とも、盛んになっていくものと思います。

東西大学校のある釜山は、ソウルに次ぐ韓国第二の都市です。そして、朝鮮半島のほぼ全土が戦場となった朝鮮戦争において、大都市で唯一戦場になることを免れた場所です。古くから港湾都市として発達し、日本との交流の深い都市でもあります。釜山という町自体がたいへん魅力的な土地ですので、学生には是非一度行ってみたいと思います。